

山城に行こう！



なにも
ないのではない
すべてはそこにある
想像してみよう
戦国時代を生き抜いた
先人たちの知恵を

久々利城の復元イラスト（香川元太郎作）

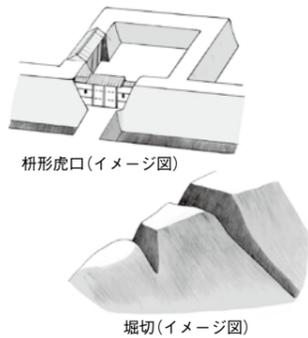
戦国山城の魅力

市内には、戦国時代の城跡が10カ所あります。
城跡というと、行ったことのない人や城の知識がない人には「何もなし」「ただ土が盛ってあるだけじゃないか」と思われがちです。

一般の人が城としてイメージするのは、犬山城や姫路城のような天守が建ち、高い石垣と水堀を持つような城ではないでしょうか。
しかし、日本中に作られた城の99%は、字のごとく土から成る城でした。これらは、山を切り盛りして平坦地を造成し、土を盛って壁を作り、尾根筋を断ち切って敵の侵入を防ぐといった防衛施設の役割を果たしていました。国宝に指定されている天守のある城でも、建設当時のまま全て残っている城はなく、現在までに何度も解体や修理が行われています。

それに比べて、何もなしと思われる市内の山城は、その多くが山頂にあるため、これまで開発などを逃れることができました。そして400年以上もの間そのまゝの状態が保存されてきました。何もなしではなく、まぎれもない本物がそこにあるのです。
市は地方創生の重要な柱として平成28年3月に可児市観光ブランドデザインを策定しました。その中に戦国城跡

巡りがあります。
廃城時に石垣を壊した跡が貴重な国史跡・美濃金山城跡。土を盛って作った壁や斜面を削り取って造った絶壁が見どころの土の城、久々利城跡。子どもたちが遊べるように地域の力で城跡を整備した今城跡。
土の城から石垣の城まで味わえる貴重な地域。そんな可児市で本物の価値を知り、子どもから大人までが郷土愛を育むことができる事業を展開していきます。



久々利城を知る

美濃守護土岐頼康の弟康貞を祖とし、室町幕府奉公衆となった久々利氏が城主でした。天正10(1582)年に久々利頼興が金山城主森長可によって討たれました。その後、森氏は家臣の林長兵衛を置いたと伝わっています。久々利城の城郭構造は、築城当初の単調な造りと、戦国時代後半に導入された横矢や櫓形虎口、堀切などがあり、複合的な構造となっています。

参加する

戦国いくさ体験！

市内に城跡がたくさんあることを知らない人がほとんどです。歴史が嫌い、興味が無い。そんな人たちに興味を持ってもらうためには楽しい遊びが一番。

子どもから大人まで夢中になれる戦国いくさ体験の「しゅんご」。「チャンバラ合戦-KUSA」を今年度は20回ほど開催します。
ルールは簡単。スポンジ刀で相手の腕についたボールを落とすだけです。これまでにチャンバラを通して城の名前を覚えた参加者は2000人を超えました。今後は、城攻め体験や兜・甲冑作り、段ボール城作りなど面白い企画を計画していきます。

集え！待々次回開催予告！

可児夏まつり2016のイベントの一つとして開催します。
期日 8月14日(日)
時間 ①午前10時30分～ ②正午～午後2時～ ④午後3時30分～
※受け付けは各回30分前から開始。
場所 ふるさと川公園
対象者 4歳以上の人
参加費 500円(刀持参加者は無料)



兼山で行われたチャンバラ合戦で雄たけびを上げる参加者

地域づくり

活動人口の増加！

市内には城跡を地域の財産として整備している団体があります。
ガイドを中心に活動している「美濃金山城おまもりたい」。竹で覆われた城跡を毎月伐採して整備している「久々利城跡城守隊」。市内で一番早く城を整備した「今城址を整備する会」。今年4月には、これらの団体で構成した可児市山城連絡協議会を立ち上げ



可児市山城連絡協議会の事務所

可児市山城連絡協議会
場所 兼山674番地1(兼山生き生きプラザ内)
時間 水曜～日曜日の午前9時～午後5時
※イベントなど不在の場合あり。
問合せ 同協議会事務局
☎00443
✉yamajio@na.ck.ne.jp

参 ぬめる

広報、PR活動

城跡の魅力や団体の活動を広く市内外に広めるため、城跡のホームページや動画、PRグッズを作成しています。城PR動画は、地域の人が企画し、撮影と出演もしていただきます。撮影した動画は特設ホームページやYouTubeなどで配信していきます。
また、PRグッズとしてオリジナルラベルの飲料水「チャンバラの力水」を8月からチャンバラ合戦会場で販売します。



PR動画作成のため森可成に扮する富田市長

山城に行こう！in可児2016

昨年好評だった春風亭昇太さんをはじめとする城好きおやじが、再び可児市に集結します。10月8日、9日の2日間は魅力あるイベントが盛りだくさん。
詳しくは広報かに8月15号の折り込みチラシをご覧ください。
問合せ 観光交流課